

浜の活力再生プラン (第2期)

1 地域水産業再生委員会

組織名	八代市鏡町地区地域水産業再生委員会
代表者名	鏡町漁業協同組合 代表理事組合長 徳田 司

再生委員会の構成員	鏡町漁業協同組合、八代市農林水産部水産林務課 熊本県南広域本部農林水産部水産課
オブザーバー	

対象となる地域の範囲及び 漁業の種類	鏡町漁業協同組合の定款で定める地区 漁船漁業、採貝漁業、カキ養殖業、アオノリ養殖業：50名
-----------------------	--

2 地域の現状

(1) 関連する水産業を取り巻く現状等

<p>八代市鏡町周辺海域は、八代海の湾奥部に位置しており、延縄・流し網・小型定置網等の漁船漁業、干潟を利用したアサリ・ハマグリ等の採貝漁業、カキ養殖業、アオノリ養殖業が行われている。</p> <p>地域の漁業の現状としては、漁船漁業では、温暖化や海域環境の悪化、乱獲等で年々漁獲量が減少している。</p> <p>また、採貝漁業では、アサリが平成23年度の豪雨により全滅状態となり、その後徐々に回復の兆しは見えてきたものの、ナルトビエイやカモ等の食害を受け、その被害は深刻である。しかしながら、アサリを食害生物から保護するための被覆網の設置により、近年は徐々に資源回復の明るい兆しが見えてきた。</p> <p>更には新しい収入源として、平成25年度から取り組みはじめたマガキ養殖はブランドガキ『鏡オイスター』として好評を得ている。一方、歩留まりの向上や販路拡大が課題で安定的な生産と利益向上に向け、漁業者は日々研究を重ねている。</p> <p>また、平成24年からアオノリ養殖の試験に取組み始め、平成30年度から漁業権の免許を受け、アオノリ養殖に取り組むこととしている。</p>
--

(2) その他の関連する現状等

<p>高齢化に伴う漁業者の自然減少や後継者不足、新規就業者の確保が課題である。</p> <p>また、漁業用資器材及び燃油の高騰による漁業経費の増加が経営を圧迫している。</p>
--

3 活性化の取組方針

(1) 前期の浜の活力再生プランにかかる成果及び課題等

--

(2) 今期の浜の活力再生プランの基本方針

上記(1)に記した前期取組みを通じて得られた成果や知見等を生かしつつ、次の基本方針を定め、残された課題を解消し、もって生産性の向上とコスト削減策に取り組む。

- ① アサリ・ハマグリ資源回復を図るための食害生物対策及び資源管理の徹底
- ② マガキの生産性の向上、販路拡大及び資機材の共同化による経費削減
- ③ アサリ・マガキを利用した観光漁業の推進
- ④ アオノリ養殖の推進
- ⑤ 省燃油活動の取組み推進

(3) 漁獲努力量の削減・維持及びその効果に関する担保措置

熊本県漁業調整規則や天草不知火海区漁業調整委員会指示を遵守する。併せて、鏡町漁業協同組合漁業権行使規則により、アサリ、ハマグリ等の漁業期間、区域、漁具漁法及び採捕サイズ制限に努める。

(4) 具体的な取組内容（毎年ごとに数値目標とともに記載）

1年目（平成31年度） 「所得20.4%向上」

<p>漁業収入向上のための取組</p>	<p>【アサリ、ハマグリ資源回復】</p> <p>① 採貝業者は、食害生物（ナルトビエイ、チヌ、ツメタガイ、ホトトギスガイ、カモ等）の駆除を行う。</p> <p>② 漁協及び採貝業者はアサリ保護のため、被覆網の設置、メンテナンス、張替えを行うとともに、経費削減のため、安価な被覆網を試験的に導入する。</p> <p>③ 採貝業者は、産卵母貝の保護及びアサリ単価の向上のため、大型規格（4.5分・5分）のアサリのみを漁獲し、年間水揚目標を30tとする。</p> <p>④ 漁協及び採貝業者は、アサリの繁殖期の保護のため産卵期である春と秋及び品質低下しやすい夏場に、採貝の休漁期間を設ける。</p> <p>⑤ 漁協及び採貝業者は、資源量が減少しているハマグリ資源量を増やすため、漁獲を禁止して、母貝を養成し産卵させる。</p> <p>【マガキの生産性の向上、販路拡大】</p> <p>① 漁協及びマガキ養殖業者は、生産されたマガキの品質保持、ブランド維持に必要な衛生管理の徹底のため、生産基準に係る内規の内容検討及び生産者識別制度の検討を行う。</p> <p>② マガキ養殖業者は、養殖技術の向上を図るため、沖出し時期と生育率の関係の再確認等を行う。また、歩留まり向上策について、県等の関係機関と共同で検討を行う。</p> <p>③ 漁協及びマガキ養殖業者は、マガキの販路拡大のため、商談会への参加など営業活動を実施する。</p> <p>④ 漁協及びマガキ養殖業者は、カキ小屋（鏡オイスターハウス）の集客力向上を図るため、HP、フェイスブック、プレスリリース等を利用して最新情報を発信する。</p> <p>【観光漁業の推進】</p> <p>① 漁協は、地域の活性化のために行っている潮干狩りの一般開放に関し、一人当たりの漁獲上限を現在の5kgから3kgとすることで開放期間を延長し、来客人数の向上を図る。</p> <p>② マガキ養殖業者は、鏡オイスターハウスの顧客回転率や客単価向上のため、従事者の接遇研修や新メニューの開発を実施する。また、適正な人員配置や営業日・時間を検討し、経費削減を行う。</p> <p>【アオノリ養殖】</p> <p>① アオノリ養殖業者は、平成30年度から開始したアオノリ養殖の生産技術の安定化を図る。また、年間収穫目標を100kg（乾燥重量）とする。</p> <p>② アオノリ養殖業者は、作業工程における衛生管理を徹底する。</p>
<p>漁業コスト削減のための取組</p>	<p>① 低速航行を徹底する。</p> <p>② 年1～2回の船底清掃を徹底する。</p> <p>③ エンジンを換装する際は、省エネ機器の導入を推進する。</p> <p>④ マガキ種苗購入のコスト削減のため、地元採苗が可能な地種カキの養殖を試験的に実施する。</p> <p>⑤ マガキ養殖業者は、マガキ養殖筏の改良試験を行い、耐用年数の延長を検討する。カキ養殖資材・機材の共同化を促進し、コスト削減を行う。</p>
<p>活用する支援措置等</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・水産多面的機能発揮対策事業（国） ・競争力強化型機器等導入緊急対策事業（国） ・稼げる水産業づくり事業（県） ・八代市地域水産業活性化支援事業補助金（市）

2年目（平成32年度） 「所得25.1%向上」

<p>漁業収入向上のための取組</p>	<p>【アサリ、ハマグリ資源回復】</p> <p>① 採貝業者により、食害生物（ナルトビエイ、チヌ、ツメタガイ、ホトトギスガイ、カモ等）の駆除を継続する。</p> <p>② 漁協及び採貝業者はアサリ保護のため、被覆網の設置、メンテナンス、張替えを行うとともに、被覆網設置場所の移動による輪採制を導入する。また、経費削減のため、安価な被覆網を試験的に導入する。</p> <p>③ 採貝業者は、産卵母貝の保護及びアサリ単価の向上のため、大型規格（4.5分・5分）のアサリのみを漁獲し、年間水揚目標を35tとする。</p> <p>④ 漁協及び採貝業者は、アサリの繁殖期の保護のため産卵期である春と秋及び品質低下しやすい夏場に、採貝の休漁期間を設ける。</p> <p>⑤ 漁協及び採貝業者は、資源量が減少しているハマグリ資源量を増やすため、漁獲を禁止して、母貝を養成し産卵させる。</p> <p>【マガキの生産性の向上、販路拡大】</p> <p>① 漁協及びマガキ養殖業者は、生産されたマガキの品質保持、ブランド維持に必要な衛生管理の徹底のため、生産基準に係る内規の内容検討及び生産者識別制度の検討を行う。</p> <p>② マガキ養殖業者は、養殖技術の向上を図るため、沖出し時期と生育率の関係の再確認等を行う。また、歩留まり向上策について、県等の関係機関と共同で検討を行う。</p> <p>③ 漁協及びマガキ養殖業者は、マガキの販路拡大のため、商談会への参加など営業活動を実施する。</p> <p>④ 漁協及びマガキ養殖業者は、鏡オイスターハウスの集客力向上を図るため、HP、フェイスブック、プレスリリース等を利用して、最新情報を発信する。</p> <p>【観光漁業の推進】</p> <p>① 漁協は、地域活性化のために行っている潮干狩りの一般開放に関し、1年目（平成31年度）同様、漁獲制限により開放期間を延長し、来客人数の向上を図る。</p> <p>② マガキ養殖業者は、鏡オイスターハウスの顧客回転率や客単価向上のため、従事者の接遇研修や新メニュー開発を実施する。また、適正な人員配置や営業日・時間を検討し、経費削減を行う。</p> <p>【アオノリ養殖】</p> <p>① アオノリ養殖業者は、平成30年度から開始したアオノリ養殖の生産技術を確立し、年間収穫目標を100kg（乾燥重量）とする。</p> <p>② アオノリ養殖業者は、作業工程における衛生管理を徹底する。</p>
<p>漁業コスト削減のための取組</p>	<p>① 低速航行を徹底する。</p> <p>② 年1～2回の船底清掃を徹底する。</p> <p>③ エンジンを換装する際は、省エネ機器の導入を推進する。</p> <p>④ マガキ種苗購入のコスト削減のため、地元採苗が可能な地種カキの養殖を試験的に実施する。</p> <p>⑤ マガキ養殖業者は、マガキ養殖筏の改良試験を行い、耐用年数の延長を検討する。カキ養殖資材・機材の共同化を促進し、コスト削減を行う。</p>
<p>活用する支援措置等</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・水産多面的機能発揮対策事業（国） ・競争力強化型機器等導入緊急対策事業（国） ・稼げる水産業づくり事業（県） ・八代市地域水産業活性化支援事業補助金（市）

<p>漁業収入向上のための取組</p>	<p>【アサリ、ハマグリ資源回復】</p> <p>① 採貝業者により、食害生物（ナルトビエイ、チヌ、ツメタガイ、ホトトギスガイ、カモ等）の駆除を継続する。</p> <p>② 漁協及び採貝業者はアサリ保護のため、被覆網の設置、メンテナンス、張替えを行うとともに、被覆網設置場所の移動による輪採制を導入する。また、経費削減のため、安価な被覆網を試験的に導入する。</p> <p>③ 採貝業者は、産卵母貝の保護及びアサリ単価の向上のため、大型規格（4.5分・5分）のアサリのみを漁獲し、年間水揚目標を35tとする。</p> <p>④ 漁協及び採貝業者は、アサリの繁殖期の保護のため産卵期である春と秋及び品質低下しやすい夏場に、採貝の休漁期間を設ける。</p> <p>⑤ 漁協及び採貝業者は、ハマグリ生育状況が良ければ、目標収量・規格を定めて漁獲を開始し、年間水揚目標は0.4tとする。</p> <p>【マガキの生産性の向上、販路拡大】</p> <p>① 漁協及びマガキ養殖業者は、生産されたマガキの品質保持、ブランド維持に必要な衛生管理の徹底のため、生産基準に係る内規の内容検討及び生産者識別制度の検討を行う。</p> <p>② マガキ養殖業者は、養殖技術の向上を図るため、沖出し時期と生育率の関係の再確認等を行う。また、歩留まり向上策の試験を実施する。</p> <p>③ 漁協及びマガキ養殖業者は、マガキの販路拡大のため、商談会への参加など営業活動を実施する。</p> <p>④ 漁協及びマガキ養殖業者は、鏡オイスターハウスの集客力向上を図るため、HP、フェイスブック、プレスリリース等を利用して、最新情報を発信する。</p> <p>【観光漁業の推進】</p> <p>① 漁協は、地域活性化のために行っている潮干狩りの一般開放を継続し、さらなる来客人数の向上を図る。</p> <p>② マガキ養殖業者は、鏡オイスターハウスの顧客回転率や客単価向上のため、従事者の接遇研修や新メニュー開発を実施する。また、適正な人員配置や営業日・時間を検討し、経費削減を行う。</p> <p>【アオノリ養殖】</p> <p>① アオノリ養殖業者は、生産技術の向上により、年間収穫目標を120kg（乾燥重量）とする。</p> <p>② アオノリ養殖業者は、作業工程における衛生管理を徹底する。</p>
<p>漁業コスト削減のための取組</p>	<p>① 低速航行を徹底する。</p> <p>② 年1～2回の船底清掃を徹底する。</p> <p>③ エンジンを換装する際は、省エネ機器の導入を推進する。</p> <p>④ マガキ種苗購入のコスト削減のため、地元採苗が可能な地種カキの養殖を試験的に実施する。</p> <p>⑤ マガキ養殖業者は、マガキ養殖筏の改良試験を行い、耐用年数の延長を検討する。カキ養殖資材・機材の共同化を促進し、コスト削減を行う。</p>
<p>活用する支援措置等</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・水産多面的機能発揮対策事業（国） ・競争力強化型機器等導入緊急対策事業（国） ・稼げる水産業づくり事業（県） ・八代市地域水産業活性化支援事業補助金（市）

<p>漁業収入向上のための取組</p>	<p>【アサリ、ハマグリ資源回復】</p> <p>① 採貝業者により、食害生物（ナルトビエイ、チヌ、ツメタガイ、ホトトギスガイ、カモ等）の駆除を継続する。</p> <p>② 漁協及び採貝業者はアサリ保護のため、被覆網の設置、メンテナンス、張替えを行うとともに、被覆網設置場所の移動による輪採制を導入する。また、経費削減のため、安価な被覆網を導入する。</p> <p>③ 採貝業者は、産卵母貝の保護及びアサリ単価の向上のため、大型規格（4.5分・5分）のアサリのみを漁獲し、年間水揚目標を40tとする。</p> <p>④ 漁協及び採貝業者は、アサリの繁殖期の保護のため産卵期である春と秋及び品質低下しやすい夏場に、採貝の休漁期間を設ける。</p> <p>⑤ 漁協及び採貝業者は、ハマグリ生育状況が良ければ、目標収量・規格を定めて漁獲を開始し、年間水揚目標は0.6tとする。</p> <p>【マガキの生産性の向上、販路拡大】</p> <p>① 漁協及びマガキ養殖業者は、生産されたマガキの品質保持、ブランド維持に必要な衛生管理の徹底のため、生産基準に係る内規の内容検討及び生産者識別制度の検討を行う。</p> <p>② マガキ養殖業者は、養殖技術の向上を図るため、沖出し時期と生育率の関係の再確認等を行う。また、歩留まり向上策の試験を実施する。</p> <p>③ 漁協及びマガキ養殖業者は、マガキの販路拡大のため、商談会への参加など営業活動を実施する。</p> <p>④ 漁協及びマガキ養殖業者は、鏡オイスターハウスの集客力向上を図るため、HP、フェイスブック、プレスリリース等を利用して、最新情報を発信する。</p> <p>【観光漁業の推進】</p> <p>① 漁協は、地域活性化のために行っている潮干狩りの一般開放を継続し、さらなる来客人数の向上を図る。</p> <p>② マガキ養殖業者は、鏡オイスターハウスの顧客回転率や客単価向上のため、従事者の接遇研修や新メニュー開発を実施する。また、適正な人員配置や営業日・時間を検討し、経費削減を行う。</p> <p>【アオノリ養殖】</p> <p>① アオノリ養殖業者は、生産技術の向上により、年間収穫目標を140kg（乾燥重量）とする。</p> <p>② アオノリ養殖業者は、作業工程における衛生管理を徹底する。</p>
<p>漁業コスト削減のための取組</p>	<p>① 低速航行を徹底する。</p> <p>② 年1～2回の船底清掃を徹底する。</p> <p>③ エンジンを換装する際は、省エネ機器の導入を推進する。</p> <p>④ マガキ種苗購入のコスト削減のため、地元採苗が可能な地種カキの養殖を試験的に実施する。</p> <p>⑤ マガキ養殖業者は、マガキ養殖筏の改良試験を行い、耐用年数の延長を検討する。カキ養殖資材・機材の共同化を促進し、コスト削減を行う。</p>
<p>活用する支援措置等</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・水産多面的機能発揮対策事業（国） ・競争力強化型機器等導入緊急対策事業（国） ・稼げる水産業づくり事業（県） ・八代市地域水産業活性化支援事業補助金（市）

<p>漁業収入向上のための取組</p>	<p>【アサリ、ハマグリ資源回復】</p> <p>① 採貝業者により、食害生物（ナルトビエイ、チヌ、ツメタガイ、ホトトギスガイ、カモ等）の駆除を継続する。</p> <p>② 漁協及び採貝業者はアサリ保護のため、被覆網の設置、メンテナンス、張替えを行うとともに、被覆網設置場所の移動による輪採制を導入する。また、経費削減のため、安価な被覆網を導入する。</p> <p>③ 採貝業者は、産卵母貝の保護及びアサリ単価の向上のため、大型規格（4.5分・5分）のアサリのみを漁獲し、年間水揚目標を40tとする。</p> <p>④ 漁協及び採貝業者は、アサリの繁殖期の保護のため産卵期である春と秋及び品質低下しやすい夏場に、採貝の休漁期間を設ける。</p> <p>⑤ 漁協及び採貝業者は、ハマグリ目標収量・規格を定めて漁獲する。年間水揚目標は0.8tとする。</p> <p>【マガキの生産性の向上、販路拡大】</p> <p>① 漁協及びマガキ養殖業者は、生産されたマガキの品質保持、ブランド維持に必要な衛生管理の徹底のため、生産基準に係る内規を定め、生産者識別制度の運用を開始する。</p> <p>② マガキ養殖業者は、養殖技術の向上を図るため、沖出し時期と生育率の関係の再確認等を行う。また、歩留まり向上策の本格導入を行う。</p> <p>③ 漁協及びマガキ養殖業者は、マガキの販路拡大のため、商談会への参加など営業活動を実施する。</p> <p>④ 漁協及びマガキ養殖業者は、鏡オイスターハウスの集客力向上を図るため、HP、フェイスブック、プレスリリース等を利用して、最新情報を発信する。</p> <p>【観光漁業の推進】</p> <p>① 漁協は、地域活性化のために行っている潮干狩りの一般開放を継続し、さらなる来客人数の向上を図る。</p> <p>② マガキ養殖業者は、鏡オイスターハウスの顧客回転率や客単価向上のため、従事者の接客研修や新メニュー開発を実施する。また、適正な人員配置や営業日・時間を検討し、経費削減を行う。</p> <p>【アオノリ養殖】</p> <p>① アオノリ養殖業者は、生産技術の向上により、年間収穫目標を150kg（乾燥重量）とする。</p> <p>② アオノリ養殖業者は、作業工程における衛生管理を徹底する。</p>
<p>漁業コスト削減のための取組</p>	<p>① 低速航行を徹底する。</p> <p>② 年1～2回の船底清掃を徹底する。</p> <p>③ エンジンを換装する際は、省エネ機器の導入を推進する。</p> <p>④ マガキ種苗購入のコスト削減のため、地元採苗が可能な地種カキの養殖を試験的に実施する。</p> <p>⑤ マガキ養殖業者は、マガキ養殖筏の改良試験を行い、耐用年数の延長を検討する。カキ養殖資材・機材の共同化を促進し、コスト削減を行う。</p>
<p>活用する支援措置等</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・水産多面的機能発揮対策事業（国） ・競争力強化型機器等導入緊急対策事業（国） ・稼げる水産業づくり事業（県） ・八代市地域水産業活性化支援事業補助金（市）

(5) 関係機関との連携

地域農協（JA やつしろ）や鏡まちづくり協議会と連携し、PR活動及び販売促進に努める。

4 目標

(1) 所得目標

漁業所得の向上10%以上	基準年	平成29年度： 漁業所得 千円
	目標年	平成35年度： 漁業所得 千円

(2) 上記の算出方法及びその妥当性

別添、1世帯所得計算書参照

(3) 所得目標以外の成果目標

一般漁場の潮干狩り	基準年	平成29年度： 0 (人)
	目標年	平成35年度： 3,500 (人)

(4) 上記の算出方法及びその妥当性

① アサリについては、平成23年の豪雨により壊滅状態となり、その後一般漁場の潮干狩りを中止していたが、平成30年からアサリの回復の兆しが見えたため潮干狩りの一般開放を再開した結果を基に成果目標としたものです。(別添算出根拠資料参照)

5 関連施策

活用を予定している関連施策名とその内容及びプランとの関係性

事業名	事業内容及び浜の活力再生プランとの関係性
水産多面的機能発揮対策事業	アサリ・ハマグリ資源回復のための稚貝保護及び食害生物の除去
競争力強化型機器等導入緊急対策事業	漁業コスト削減のための低燃費推進機関の導入
稼げる水産業づくり事業	漁家所得の向上を図るため、漁業者が行う6次産業化等に向けた取り組み
八代市地域水産業活性化支援事業補助金	漁家所得の向上を図るため、漁業者及び水産関連業者等が行う、高付加価値化、6次産業化等に向けた取り組み